

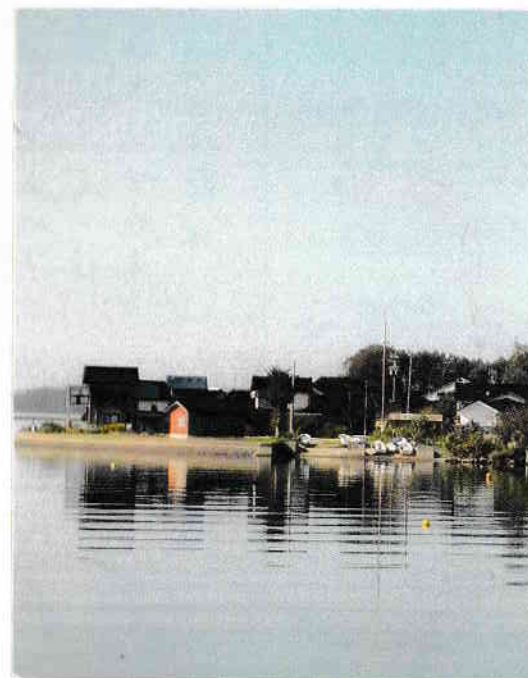


連絡先: 927-0014 鳳珠郡穴水町梶川の197番地
 教育相談室「あした塾」事務局
 0768-56-1152 (FAX兼用)

穴水再発見の旅 2

宮崎実雄と新中居八景

令和4年5月21日(土)



(中居入江 出崎金屋の浜)

「穴水再発見の旅」実行委員会
 新中居八景創造会議

日んち
寒雄

宮崎寒雄の名声は、金工作家・工芸家、茶の湯に関わる人々に広く知られ、郷土史諸本でも鑪子（かまど）梵鐘の名手などと記されている。

『郷土史』には、中居の鑪物師中、最も著名で、その先祖は足利義政に仕

え、茶の湯釜を造り多に愛められた。その技術は京都の名越家に学び、子孫は三代藩主前田利常に招かれ、小は釜より大は鐘に至るまで造った。

その名は初代寒雄であると書かれている。

（以上「寒雄—鑪物師宮崎三代—」
能登川鑪物館発行）

初代寒雄の肖像は、
中居の鑪物師中、
最も著名で、その先祖は足利義政に仕え、
茶の湯釜を造り多に愛められた。その技術は京都の名越家に学び、
子孫は三代藩主前田利常に招かれ、小は釜より大は鐘に至るまで造った。

初代寒雄画像護 →

寒雄翁が、この世を去ってからもう百余年にわたるが、未だにその技に対する評価は人々の間に高く伝われている。

茶の湯の道は、平常心にあるという翁の心を仰ぎ慕いつつ、翁の肖像に接していると、いざ翁と語り合っているような気がする。

（という内巻にそうです。）



宮崎家菩提寺
真言宗金竜山明王院

寒雄の生家は中居^{じふく}地福院下の考九郎扶持屋敷とされています。宮崎九郎兵衛吉家（寒雄の兄）の屋敷跡が想定されています。その寒雄の誕生地については中居説（『日本史学辞典』）と加賀金沢説（『コンサイス日本人辞典』）があり、小中



の調査・研究の結果、寒雄が中居に生まれたことが明らかになりました。膨大な資料、気の遠くなるような時間、すいません。



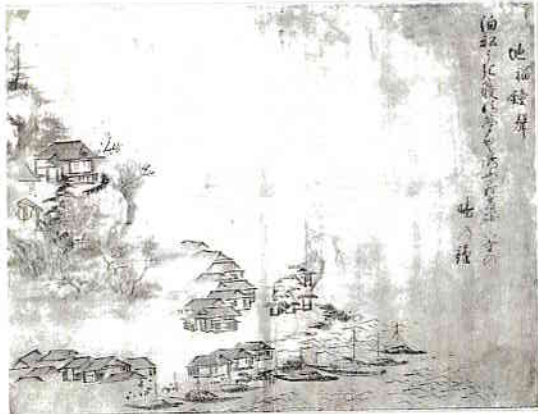
塩屋釜
（所蔵者 匿名です）

中居蓮寺に残る

中居景

宇水所中居地区には、
2つの「中居人景」が伝わ
ています。1つは江戸中期
から後期のものとされる

7枚の絵画で、中居の蓮寺に残って
います。残念なことに、あと1枚の絵画が見つかっていません。
以下に現存する7枚の絵画などを紹介します。



1. 地福鐘聲

泊り船
浮き寝の夢や
誘ふ心
磯山寺の
暁の鐘

2. 松ヶ崎春暖

浪の色も
今ひとしほの
松ヶ崎 時
入江霞める
春の曙



3. 白鷺群鷗

うねりに
寝る鷗は
消えらぬ
雪とみち
白鷺の浜

4. 瑞鳳朧月

淡松の
やすみ木の間に
影ふけて
漏るとみちぬ
春の夜の月



5. 南浦釣舟

春の日も
暮るるや惜し
釣舟の
暇有りげに
かへる浦波





6. 内浦塩竈

うちくろ しあがま
あひと た
番人の炊ける
煙のそれなく
外 震ぞ満つる
浦の塩竈

7. 奥津鎮守

おの ちんい
松原の
奥津の宮居
春來はば
千代を緑の
影ぞ木深き



8. 存在しない一景は「夜雨」

現存しない一景はどこに散逸したのか？ どうして無くなったのか？ 推測ではあるが、中国の「西湖十景」、そしてそこから誕生した「近江八景」「金沢八景」そしてまた、「中居八景」と題した俳句や発句の考へて、残りの一景は『夜雨』と結論づけた。(どこかはわからない。)
(以上は 新中居八景創造会議資料によるものです。)

能登中居 鑄物館

中居鑄物の歴史は平安の末まで遡るものと推測され、河内鑄物師が土着したとの伝承が残っています。中居鑄物師は軍事色の濃い戦国期において、その時代の領

主層の領国経営と軍備の拡充のため重用されました。

明治に入って藩の庇護を失った中居鑄物は、いくつかの理由で衰退していき、大正13年の梵鐘の鑄造を最後に廃絶となりました。

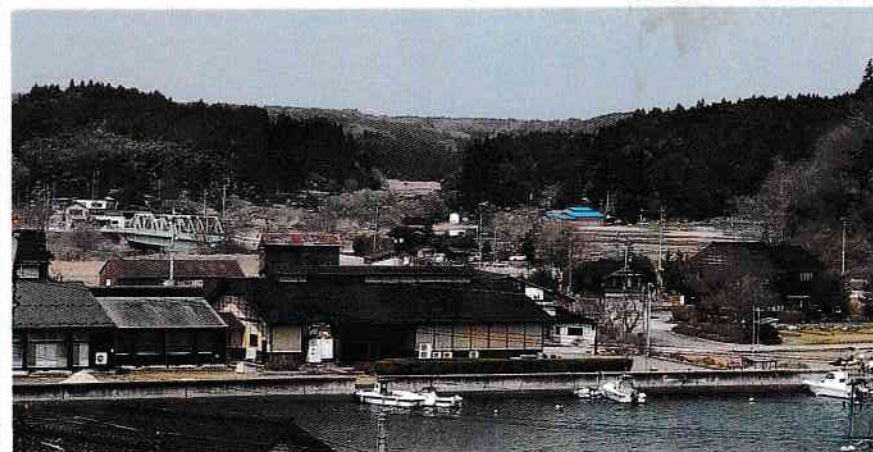
平成7年(1995)に、中居鑄物の歴史再確認と鑄物資料保存・継承を目的に、この鑄物館が建設されました。



寒碇の梵鐘

やみ野の
浄誓寺にあ
ります。

(資料は鑄物館
51)



(地福院から能登中居鑄物館を)

新中居八景創造会議



(資料を調べる竹野博正会長と不二井悟史顧問)

新中居八景創造会議
は県の助成を受けた
事業で、従来の「中
居八景」の歴史的・文化
価値の上に立って、令和
の新時代に相応しい
「新中居八景」の文化
価値を様々なジャンル

から発見・創造し、地域の活
性化に寄付することを目的と
して発足しました。

これまで「中居八景・景勝
地探訪in中居」と題して、「さ
とりの道」を辿りながら「中
居八景」に思いをめぐらせる活
動や、金沢学院大学名誉教授
の康田柳史明氏による講演
会などを行っています。

次ページより、その活動のまど
めとして「新中居八景」を紹介
していきます。(創造会議解説より) (不二井見うけい(？)黄白の彼岸花)



中居八景 地福院 羅漢樹



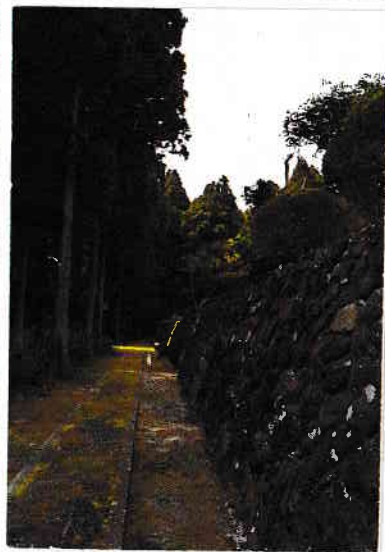
古刹・真言宗地福院には県
内最大樹齢750年の羅漢樹が
ある。(県指定天然記念物)

西蓮寺蔵「中居八景」はここを
モデルとしている。北前船の停泊を「泊船宇起寝能夢...
と言っている。近江八景を彷彿とさせる絶景に文人は
惚れ込み、海上からの作と思われる。

地福院には弥勒菩薩像や面頭愛染明王像など鎌倉
期のものは県指定文化財になっている。



(地福院羅漢樹前から望む中居湾)



2. さとりの道 みち 真言宗 真宗 禅宗 寺院94寺に点在 る墓石群を歩む。 旅のロマン、自分 との対話ができる 石畳、海。春の椿、 夏の黄、白、赤、ヒガ

ンバナが感動を引き立てる。

県内外の旅人の
メッカである。

句会、歌会など
が開催される。

さとりの道散策
マップを片手に里
たべさんのお話を
聴きながら、ゆ
たりに時間を過
ぎす。「至福のとき」
かも…。



3. 向山借景 あかいやま せいかいけい

借景は脇役のような
だが、入江を支え
ているのは向山。

向山あつての国道・
旧能登線・集落。春山桜・秋紅葉・初冬の気嵐。大晦日、
入江一円の寺院の鐘が 鳴り響き合々のは荘厳で、心の
故郷に包まれて 新年を迎える。

右の写真は30
数年前の冬の向
山です。湖のよう
な中居湾が厳
しい姿を…。



(うすくいけば、このように...)

向洋小学校校庭の
中居の入江を一望
し、立山連峰を
画とした洗心のロ
ケーションは日本屈指。
イルカの回遊が見
わたるラッキー。 明月は四季を問わない。

4. 月崎・立山連峰



5. 瑞鳳山からの 中居集落

鑄物業が栄え、北
前船が盛んな頃、中
居新宮の夜は唄が、鉦が、嬌声で賑やかであった。鑄
物師の名残りの米田孫八家。西蓮寺、慶集寺、鑄物館
御蔵橋、金屋の浜などの集落の眺めは、カキ筏もあり、
画家の最高スポット。



虹

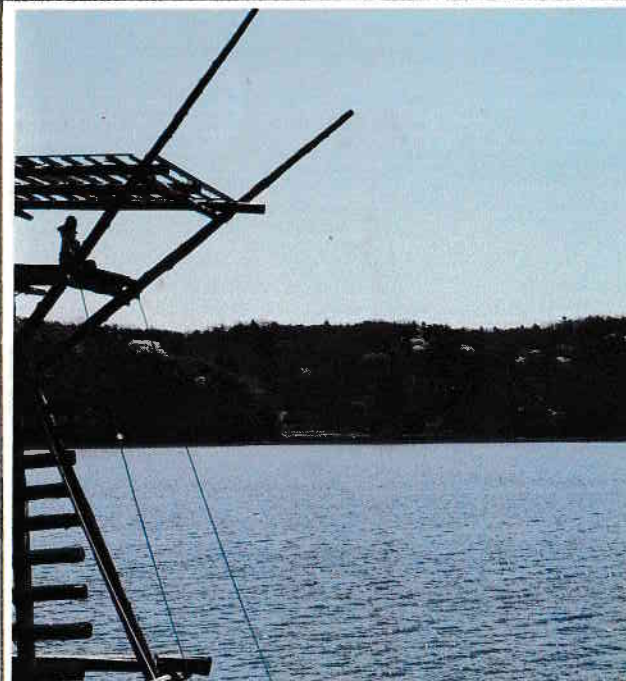


白山から瑞鳳山にかけて大きく弧を描く主虹、副虹。入江の神と対話する。見るとはう幸運至。

日語川は田畑を潤し、蜚蜚飛び、四ツ平網のイサガ漁は長閑。又、住吉川奥山からの曙光は「枕草子」の春を想起させる。



(虹の写真は 島田衣子さん提供です。)



ボウ待ち櫓

往時、入江に与基も試点在したほどボウ漁は盛んであった。洗い・焼き。特に酒の止め「茶ず」は最高で町の魚に付いている。

サマコ、カキ貝、もずく、ハナメ、アジ、真珠貝がよく取れ、食卓を賑わしてくれる。

鮎サマコ、ゴリの佃煮、二のれた、アジは珍味。ボウ待ち櫓は時間の流れを止めるよう。



(30数年前に撮った写真)

5.

(資料写真)



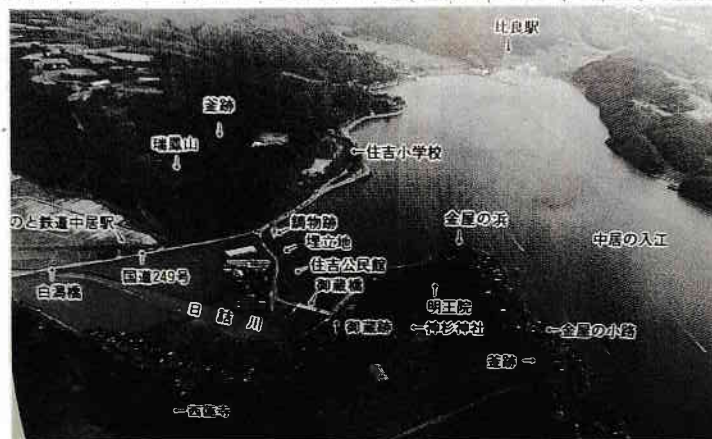
有余の集う能登半島きっての名茶会。地区
内の畑には茶株が白い花を咲かせ、家庭で
も伝統的に手もやし茶を愛飲する。

静かに落ち着いた雰囲気
の中居街並



(新中居八景に関する解説等はすべて「金造会議」の資料によるものです。)

昭和55年中居航空写真 ↑



A black and white photograph showing a person in a small, dark boat on a calm body of water. The person is positioned in the center of the frame, facing away from the viewer and slightly to the right. They are holding a long pole or oar that dips into the water. The water is still, reflecting the light from the sky. In the background, a dark, silhouetted shoreline with trees and some buildings is visible under a bright, overcast sky. The overall mood is quiet and contemplative.

昭和50年 中居入江 ↑
左 金屋川

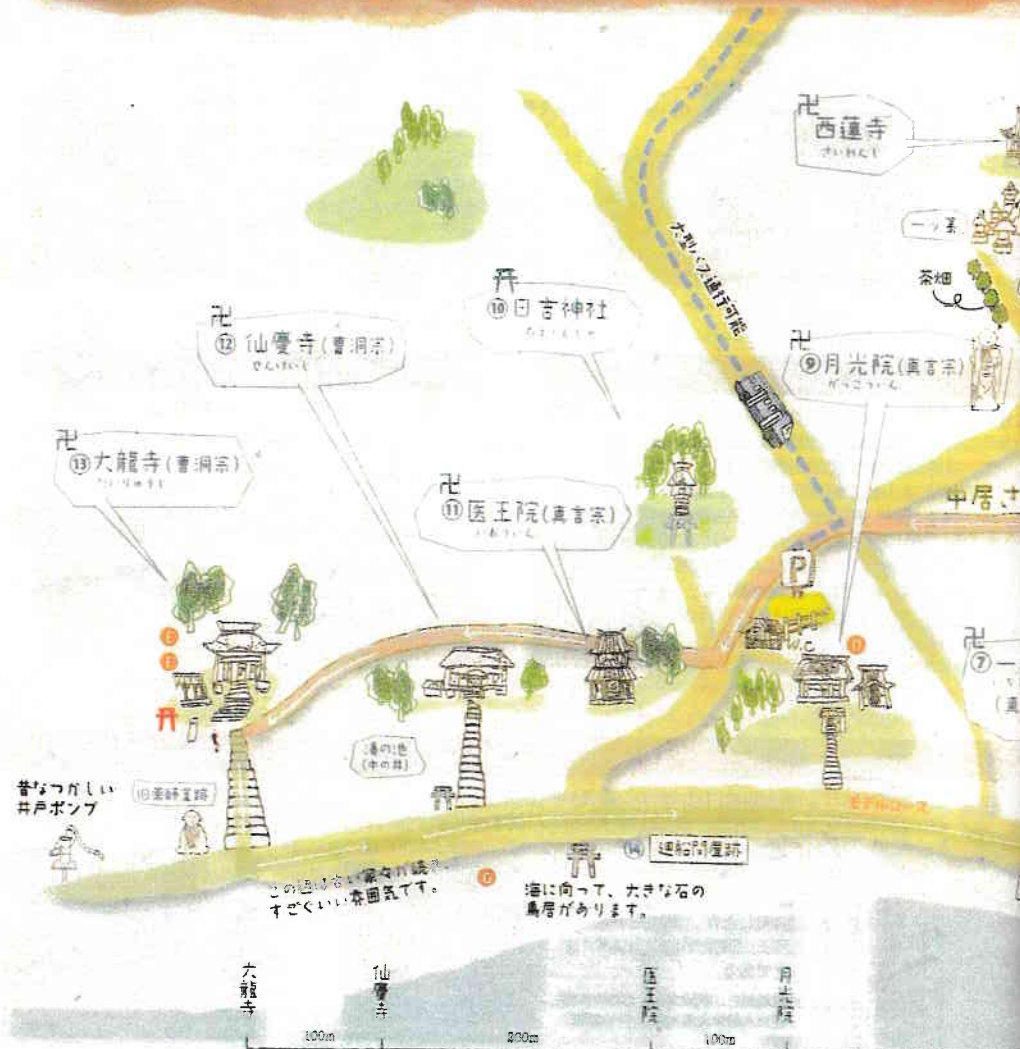


昭和55年
発掘後の金屋浜
→
(白墨蹟は能登中居鍬物師使刻)

穴水
中居

さとりの道 散策マップ

かつて桶屋で栄えた能登町。小さな集落の中に散らばる寺院・神社の数は、当時の繁栄が伺えます。歴史をたどると、雄大な景色が広がります。



七海第二
トンネル



【中居さとりの道】

「7寺2社」「古い家並み」「中居湾」をめぐる、約1時間の散策コース

江戸時代に漆器製造で栄えた中居の里。今もかつての面影が、その家並みや寺院群に見られます。



- 1 地蔵院前の石畳をスリッパで散歩
- 2 地蔵院からはボウ待ちやぐらを望むサイコーの見晴らし
- 3 ペンギンも来るのー休み！
- 4 月形陣に松ちゃんを抱いた娘のお地蔵さんを見え
- 5 大龍寺に到着
- 6 可愛らしい神社を発見。早速、お参り。
- 7 古い家々が静けさの中
- 8 金屋の小路もあるよ

能登中居博物館
TEL 0768-56-1110
FAX 0768-56-1111

中居の里づくり実行委員会
TEL 0768-56-1231